

公文書館だより

第11号 平成16年3月31日



上末吉村・下末吉村絵図（近世資料）

平成一六年度 第一回 通常展示

資料にみる神奈川の歴史

会期 五月一八日（火）から八月三二日（火）

神奈川県立公文書館では、五月一八日より「通常展示 資料にみる神奈川の歴史」を開催します。開館一一年目に入り、次の一〇年に向かう最初の通常展示です。時計の針を開館以前に戻してみよう。

当時知事職にあり、いわば公文書館の産みの親とも言える故長洲一二氏が、開館の八ヶ月ほど前に、公文書館の役割について述べています。『公文書館』の役割は大きくいつ

て三つです。第一に、県の公文書や古文書、郷土資料などの歴史資料を収集すること、第二に、それを大切に保存し後世に伝えること、そして第三に、集めた資料を広く公開し、積極的に活用していただくということ。…」

当館の展示は、この三点を踏まえ館所蔵資料を多くの方に知っていただき、利用者の皆さまに積極的に活用していくために開催しています。どれだけ多くの歴史資料を収集しても、安定した環境で長期に資料を保存できても、それだけでは不十分なのです。

さて、「資料にみる神奈川の歴史」というタイトルで通常展示を開催するのは五回目になります。

今回も、館所蔵資料によって、「古代」「中世」「近世」「近現代」という歴史の大きな流れをたどっています。

鎌倉に幕府が置かれた頃の記録写真はありませんし、江戸の庶民の生活の様子を、記録した映像ももちろん存在しません。しかし、当時の歴史資料をじっくりと味わうことによ

り、当時の状況に思いをはせることはできます。その時代の人々が、必要な何かを、私たちに教えてくれるかもしれません。

「いくらあかあかと燃えていても、一本のろうそくの灯は燃え尽きて消える。しかし、その一本の灯でも、それが次のろうそくへ、それがまた次へと、次々に灯をともし続けていくならば、次々に灯をともし続けていくならば、尽きることはない。永久に無尽である。」

長洲氏は、「燈燈無盡」という言葉で、世代を超えて受け継がれる「灯」の大切さをしばしば訴えています。古文書・公文書などの歴史資料は、「灯」を次の世代に引き継いでいくために活用すべき素材です。ぜひこの展示をご覧になり、興味を持たれた資料を閲覧して下さい。そして利用・活用してください。そこで感じたこと・考えたことが次の世代に受け継がれる「灯」となります。

（参考資料 長洲一二『燈燈無盡』）



公害防止広報用ポスター（近現代資料）

戦国時代の神奈川 — 北条五代文書展 —

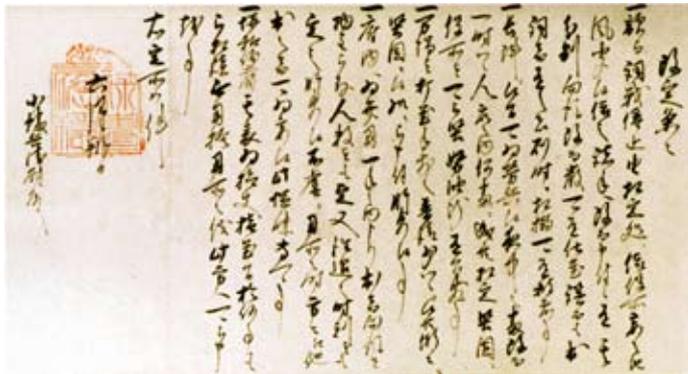
会期 一月一四日(水) ～ 三月一四日(日)



北条氏康書状(永禄12年)12月5日
豊前氏古文書【前期】



北条氏政書状(永禄13年)
8月4日 山吉文書【前期】



北条家定書(天正18年)6月1日 小幡文書【後期】

東国の戦国時代は、北条早雲【正しくは伊勢新九郎盛時、出家後は早雲庵宗瑞】の登場によつてはじまる。

早雲は室町幕府の重臣伊勢氏の出身で、姉妹の北側殿の縁で今川氏の家臣となり、駿河に下向した。明応二年(一四九三)伊豆に進入、同四年に小田原城を奪い、伊豆・相模両国の戦国人名に成長した。二代氏綱は武蔵への進出をめざし、大永四年(一五二四)江戸城を攻略、北条改姓、虎の印判の使用など、北条氏の基礎を築いた。

三代氏康は上杉謙信や武田信玄と合戦をくりかえし、永禄二年(一五五九)には『小田原衆所領役帳』を作成、内政にも意をそそいだ。四代氏政は常陸・上野方面に領国を拡大するが、畿内で織田信長が台頭し、その対応にもせまられた。五代氏直は北条氏最大の版図を形成するが、天正一八年(一五九〇)、全国統一をめざす豊臣秀吉の大軍をまえに、三ヶ月におよぶ龍城戦のすえ降伏した。北条氏は相模小田原城を本拠に、五代、約一〇〇年にわたり、伊豆・相模・武蔵を中心として、関東に覇を唱えた戦国大名である。

今回の展示は、公文書館所蔵の北条五代の発給文書を中心に、戦国時代の神奈川の歴史を概観した。(出典資料 前期五八点 後期五七点)

所蔵資料紹介

『野毛商店街の露店整理
に関する記録(第一輯)』

昭和三五年二月 野毛商店街協同組合 B5版八〇頁 孔版印刷

ここで紹介するのは、野毛本通りと大岡川沿いの野毛銀座通りに残された最後の露店整理の資料です。本書は商店街側により編集されたもので、露店側への撤去働きかけの段階(昭和二十七年～三二年)、県・市への請願と露店側の反対運動(昭和三二年)、代替地斡旋時期(昭和三三年～三五年)の三期に分けて記述されています。表題に第一輯とあるように、昭和三九年一〇月の都橋ビルへの入居による決着までの記述はありません。第二輯は出版されたのか? 当館を含め県立図書館や横浜中央図書館では所蔵していません。

本書の特筆すべき点は掲載資料の豊富さです。請願文、市との会見記録など商店側の資料だけでなく、露店側の新聞折り込みや商店側への抗議文、組合刷新同盟の怪文書など今となつては個別入手不可能なものが二点掲載されています。例えば、昭和二四年一〇月のこの地域の露店一四五店の出店状況図面があります。本通りには靴屋・鞆屋、銀座通りには食品店と洋服屋が目につきます。

平成一五年度ミニ二展示

ウインドウ展示ケース一つを使用
して行うこの展示は、本県が寄贈を
受けた山口八十八氏のコレクション
の中から時宜に合った史料を選んで
釈文、解説、年表などをつけて紹介
したものです。

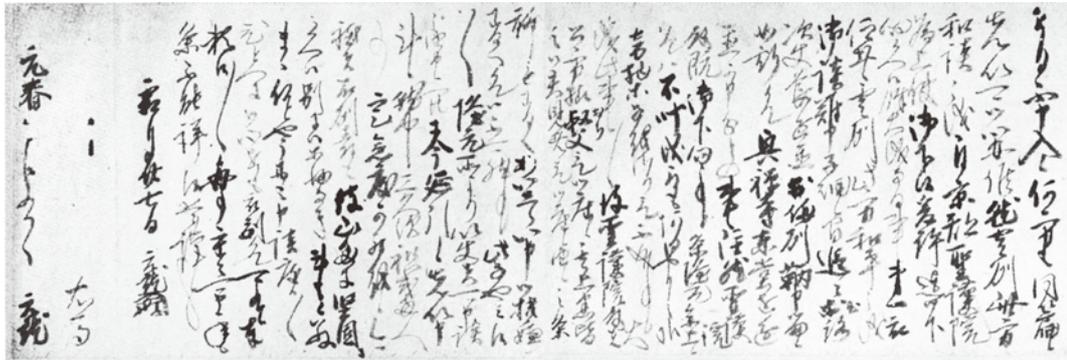
一五年度は、坂本龍馬・勝海舟・
西郷隆盛・毛利元就の四人の手紙
を展示しました。坂本龍馬の手紙に
ついては、本誌一〇号で紹介しまし
たので本号では残り三人の手紙をま
とめて紹介することとしました。

勝海舟書簡は、西郷隆盛絶命詞の
摺本を明治天皇に見せるため宮内次
官吉井友実に仲介の労を依頼したも
のですが、これには「必ず天覧に供
したい」という海舟の強い願望が込
められています。その理由として、
西南戦争による西郷朝敵汚名からの
名誉回復があります。海舟は、江戸
開城時の西郷の協力を忘れ得ず、絶
命詞摺本を献上することにより天皇
接近を図り名誉の回復に努めたこと
が上げられます。

西郷隆盛書簡 明治四年一〇月、
台湾の南端で発生した琉球宮古島船
員殺害事件に関し、政府派遣樺山資
紀の報告書を同参議である板垣退助
に転送しその処理を依頼した手紙で
す。

毛利元就書状 元就の国を想い家

を思い子を愛する情熱と神仏に対す
る崇敬の念とを教え諭した教訓状は
有名な文書ですが、二男元春への返
事である本書も出陣中の息子に「石
見国は山が多く堅固なので危険なこ
とはない」と書き送り親の愛が伝わ
る内容の手紙です。



永祿三年（1560）霜月廿七日 毛利元就書状（寸法、タテ25.7×ヨコ79.7）

行政資料の紹介

「新総合計画資料」

（昭和四七年度完結文書全一二冊）

当公文書館には毎年多くの公文書
が引き渡されています。県庁の各部
局や出先機関で作られている公文書
が、公文書館のものになり、一般の
皆さまにも閲覧可能になります。

そうした公文書の中から、今回は、
「新総合計画資料」全一二冊をご紹
介します。この資料は、一二冊の簿
冊（公文書をまとめて綴じたもの）
からなっています。昭和四七（一九
七二）年度完結の文書で、過去数年
分の資料が綴られています。

現在でも「新総合計画」が作成さ
れています。この資料という「新
総合計画」は、戦後五番目の総合計
画を指しています。その計画を策定
するために、一つ前の「改定第三次
総合計画」について検討したのがこ
の資料なのです。この計画は、「人
口と産業の集中による都市化の進展
に伴い、『往みよい県土の実現』を
めざす」計画として、昭和四四（一
九六九）年に策定されています。

「新総合計画資料」全一二冊には、
大別して二種類の文書が綴じこまれ
ています。一つは計画作成の過程で
正式に決裁を受けた文書です。「神
奈川県専門委員会議における議事の

概要について」や、「相模川流域下
水道事業進捗協議会幹事会」などが
これにあたります。

もう一つは、計画作成過程で活用
された様々な文書です。「酒匂川水
系各河川の水質試験調査報告書」や、
「砂防関係図面」「治水関係図面」な
どがこちらに含まれます。

いくら「閲覧可能になった」とい
われても、実際に閲覧してみようと
思わない方が多いかもしれません。

でも一度ご覧になって下さい。公
文書にも楽しみ方があります。簡単
な楽しみ方としては、地図や図面類
などをながめること。じっくりみて
いくと、当時の歴史的变化が
わかります。

より深い楽しみ方としては、行政
刊行物などと合わせて読んでいく方
法もあります。『第三次総合計画
改訂版』（昭和四四年九月発行）と
合わせて読み進めることによって、
県行政についての理解が深まります。
新たな発見や現時点での問題提起に
つながるかもしれません。

ぜひ一度、当公文書館で公文書
をお手にとってみてください。

平成二六年度年間行事案内

※【展示のご案内】

(通常展示)

「資料にみる神奈川の歴史」

五月一日～八月三十一日

(企画展示)

「かながわの教育

―復興期から成長期まで―

九月二四日～十一月二四日

(企画展示)

「幕末の神奈川」

一月二五日～三月一三日

(常設展示)

今年度からはじまる新しい展示です。一年を通じて公文書館の資料による展示がご覧いただけます。今年度は、

・「高度成長期のかながわ」：広報課撮影の写真と独自の年表で当時の様子を知ることができます。

・「幻の鉄道」：東京―大阪間に敷設が計画された日本電気鉄道に関する資料があります。

・「マリア・ルス号事件」：事件の概要と解決後に贈られた大旗（飾旗）の写真を展示します。

・「毛利元就の手紙」：二男元春に宛てた返書で元就の心情を表現した手紙です。

・「西郷隆盛の手紙」：板垣退助宛

の琉球宮古島船員殺害事件の報告です。

(ミニ展示)

・「伊藤博文の書簡」

五月二二日～六月三〇日

内閣制度を創設し、自ら初代内閣総理大臣に就任した博文の書簡を紹介します。

・「絵入りロンドンニュース」

七月一三日～八月三十一日

幕末から明治にかけての絵入りロンドンニュースの中から、横浜など日本各地の様子を紹介します。

・「吉田松陰の日記」

九月一四日～一〇月三十一日

旅を実際の学問とみた松陰の日記を展示します。

・「明治の布達」

一月一二日～一二月二六日

布達とは現在の公報にあたるものです。布達から時代状況を探ります。

・「徳川斉昭の書簡」

一月一二日～二月二七日

水戸藩主で弘道館を創設した斉昭の書簡を紹介します。

・「月刊かながわ」原画紹介

三月九日～三月三十一日

『月刊かながわ』の表紙として、土田邦彦氏が描いた県内各地の風景の原画を、順次紹介します。

※【講座のご案内】

毎回ご好評をいただいている古文書解説講座を今年度は次のように開催します。ふるってご参加ください。

・中級講座

五月一六日～六月一三日の各日曜日（五回）

江戸時代の資料を中心に解説し、歴史を探究します。

・上級講座

一〇月一七日～一〇月三十一日の各日曜日（三回）

歴史的事実の確認や時代背景を探ります。

・入門講座

二月六日～三月一三日の各日曜日（六回）

初めて近世文書を解説するための入門コースとして開催します。

・一日講座

一二月五日（寒川町民センター）
県下各地の施設を利用して、その地域の歴史の理解を深めます。

※【館利用のご案内】

・開館時間

閲覧室：午前九時～午後五時まで
会議室：午前九時～午後九時まで

・休館日

毎週月曜日、国民の祝日（月曜日の場合は翌日）

年末年始（一二月二八日から一月四日まで）

* 四月一日から四月一五日までは館内整理のため、閲覧室は利用できません。

・利用の仕方

閲覧室：閲覧室の資料は自由に閲覧できます。学習できるスペースがありますのでご利用ください。（二九席）

会議室：一般の方が利用できません。（有料）

・交通のご案内

（電車の場合）

相鉄線「二俣川駅」下車。徒歩七分または相鉄バス「運転試験場」下車徒歩三分

（車の場合）

「保土ヶ谷バイパス」本村インターから六分。駐車場三五台分有り。

編集後記

「館の活動情報が行き渡っているのか」の声があり、一五年度は市町村の生涯学習センターなどを通じて広報をさせていただきました。一六年度は常設展示を行うなど館活動の充実に努めてまいります。今後とも館の一層のご利用をお願いします。

神奈川県立公文書館だより（第二一〇号）

平成十六年三月三十一日発行

編集発行 神奈川県立公文書館

〒二四一―〇八一五

横浜市旭区中尾一―六一

電話 〇四五（三六四）四四五六